

## 恵那市飯地町の放課後子ども教室「寺子屋」

対象学校名等	恵那市立飯地小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	「地域の子を地域で育てる」放課後子ども教室の運営		

### 地域の願い

- 標高600m、恵那市の「天空の里」と呼ばれる飯地町は、小学校の全校児童数が35名（平成26年度現在）、少子高齢化が進む山間地である。三世代同居の家庭が多く、普段児童は授業後に自宅へ帰り、主に祖父母に面倒を見てもらっている。しかし、夏休み期間中は、祖父母の負担が大きく、地域に子どもの居場所づくりの場を望む声が大きくなっていった。
- 夏休み期間中の子どもの居場所づくりのため、また、地域子ども達に地域の大人が積極的に関わり、飯地に愛着を持つ子を育てるため、公民館が中心となって放課後子ども教室「寺子屋」の運営を開始した。

### コーディネーターの関わり方

- 公民館が「寺子屋」の主な活動の場になっている。公民館長と主事の2名が事務局となり保護者会と協議して運営計画を作成し、地域の各種団体や講師等との連絡調整を行っている。
- 保護者会とは特に密接に連携し、年間3回の保護者会の実施だけでなく、「寺子屋」運営期間中は、毎日必ず2～3名ずつ保護者のサポートがある。

### 活動の工夫や効果

- 夏休み期間中の学校プールのある日に実施することにより、午後プール当番の保護者が午前中に「寺子屋」もサポートできるよう無理のない日程を組んでいる。
- 公民館で行う利点を活かし、公民館講座や地域人材を活用した教室運営がなされている。茶の湯体験は公民館講座とつなげて、座禅体験は地元のお寺の和尚さんに、英会話教室は航空会社に勤務していた地域の方に、中国の話は仕事で中国に赴任していた保護者の方に講師を依頼して実施している。
- 地域行事の夏祭りに合わせて行灯づくりをするなど、地域行事と子どもをつなぐ場になっている。また、老人クラブや生活学校、キャンプ場等、地域の各種団体や施設とも協力して「寺子屋」運営がなされている。
- 公民館の仕事もある中で「寺子屋」を運営している館長さんや主事さんをお願いばかりでは申し訳ないという気持ちから、保護者が積極的に協力するようになっていく。五平餅づくりや流しそうめんなどの昼食づくりは、保護者会が全面的にサポートしている。
- 「寺子屋」の運営を通して、地域の大人が地域子どもたちに積極的に関わることができ、飯地という地域に愛着を持つ子を育てることができている。



【地域のお寺で座禅体験】



【地域のキャンプ場でイカダ体験】